



岐阜県立加納高等学校美術科

〒500-8276 岐阜市加納南陽町 3-17
tel 058-271-0431 fax 058-274-8025
mail c27305@gifu-net.ed.jp



KANOART

KANO high school
ART course

OIL PAINTING SCULPTURE



JAPANESE PAINTING DESIGN

知って頂きたいこと

加納高校美術科は昭和38年に設置され、令和5年に60周年を迎えました。将来美術の分野で活動したいと考える生徒に、高校での一般教養とともに、充実した造形力を養成することを目的としています。美術科の実技指導は、創作指導と進学指導を両輪としています。新たな作品を生み出す創造的な制作と、確固たる基礎学力を養成する進学指導は、相互に補完し深めあう関係となっています。

美術実技の学習は、楽器演奏などのような早期教育が絶対必要という訳ではありません。むしろ10代後半の青年期の心の成長とともに、実技も飛躍的に上達していきます。美術科では実技の専門的な授業に加え、海外研修旅行や著名な作家の講演など、10代の感受性を刺激し可能性を広げる行事を行っています。

高校卒業後の進路は、さらに専門性を高めるための進学がほとんどです。そこで、本校では美術系大学進学のための補習を1年次から計画的に行っています。土曜日はアトリエを解放し、学習のための教室解放(全校体制)もしています。また、外部講師を招いての実技指導など、美術系大学進学のためのサポート体制をとっています。

美術の仕事は、未だに画家、彫刻家など、一部の才能のある人だけの世界とされている面もありますが、それは正しい認識とはいえません。情報化社会の現代ではウェブ関係、ゲーム関係など美術の領域は確実に広がっています。この冊子には美術科での学習内容を中心に、高校卒業後の進路、さらにその後の卒業生の状況について掲載しています。本校美術科への進学を検討する際の参考資料としていただければ幸いです。



美術科での学習内容(概略)

一般教科

国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、英語、家庭、情報を履修します。2年生以降はこち実技系と教育系に分かれます。どちらも大学進学を基準としていますが、実技系コースが芸術系大学受験に必要な3教科(国語、地歴・公民、英語)主体であるのに対し、教育系コースでは教育学部の受験に必要な5教科を選択します。

美術史 美術概論 鑑賞研究

西洋美術史、日本美術史、現代美術、造形理論、色彩論、作品の相互講評や鑑賞授業など幅広く学びます。

構成

【1年】専門的な視野と造形力を広げるために日本画、油画、彫刻、デザイン・工芸の4専攻すべてを学習します。

素描

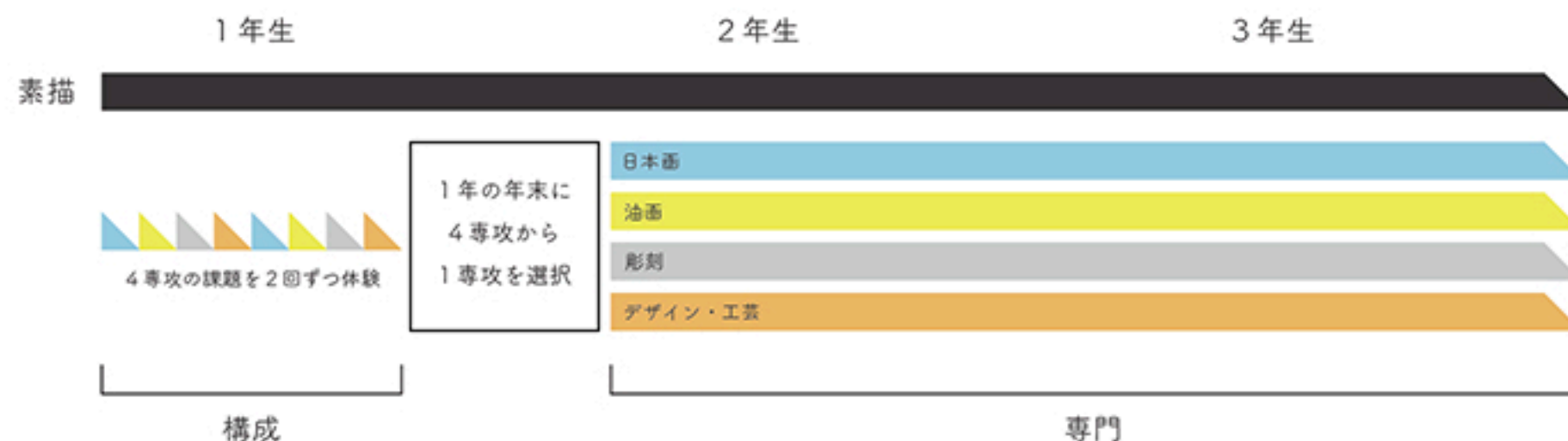
【1・2・3年】造形の基礎力を養成するために、木炭や鉛筆などで、石膏像、静物、人物などを描きます。また描くだけでなく、造形理論も同時に学習します。

専門

【2・3年】日本画、油画、彫刻、デザイン・工芸の中から一つを選び、より深く専門的な実技を学習します。また同時に専門分野への進学に備えます。

素描と4専攻

素描(デッサン)をすべての造形の基礎とし、3年間を通して美術科の軸として学びます。1年の前期は立方体、円柱などの幾何形体に始まり、野菜や果物、花といった自然物をモチーフに鉛筆デッサンをします。後期に入ると木炭を使っての石膏デッサンに移ります。専攻を選択した後、より専門的な学習では各専攻ごとの素描課題に取り組みます。素描は美術制作において根幹を成す「みる力」を鍛える訓練です。美術科で最も力を入れている重要な学習です。



日本画

【1年構成】日本画では前期に日本画の絵の具と和紙を使った課題作品の制作に取り組みます。後期は透明水彩絵の具を使い、様々なモチーフを描き、形と色の関係や描写について学びます。

【2・3年専門】日本画では観察する力や描写する力を身に付けるために、鉛筆デッサン(石膏像、静物)や、水性絵の具による着彩表現(静物、人物)について学習します。また日本画表現の基礎を身に付けるために、日本画作品制作を体験します。
大学入試課題では、描写力、表現力の向上を軸に、構合力、構想力を身に付けることを目標に、デッサンや着彩に取り組みます。



彫刻

【1年構成】彫刻では、立体造形の基本となる2つの技法を通して学習しています。1回目は塑造(モデリング)による「首像」を2人1組になって制作するなかで、頭部の成り立ちや観察の仕方について学びます。2回目は彫造(カービング)を主な技法として発泡ウレタンを使い、与えられたテーマから立体をイメージし制作します。

【2・3年専門】彫刻では、主に塑造(首像、手、模刻、動物、構成など)とデッサン(石膏像、人物、静物など)を繰り返し学習することによって立体造形の基礎を学びます。また、作家について調べたり、テラコッタや木材などを使った制作、石膏取りの実習なども行います。
大学入試課題ではデッサンや塑像の基本的課題とともに自らのテーマに基づいてイメージを構成する力を養うことを目標としています。



油画

【1年構成】油画では、油彩画の制作を通し、独自の楽しさや美しさを学習します。1回目は自分自身を対象として、人体構造や内面的なものに迫る観察力と、それを色彩に置き換えて表現することを学びます。2回目は静物をモチーフとして、基本形態の観察や質感を追求しながら、自由なイメージを加えて色彩表現することを学びます。

【2・3年専門】油画では、デッサンや油彩画の制作を通して、生涯の礎となる基礎的な力を身に付けながら、それぞれの個性が表現できるようになることを目指して学習します。多様な大学入試に対応できる実力を身に付けるため、人物・静物・風景・手渡しモチーフ・構成課題・イメージ課題・文章課題等、様々な課題を行います。その中で絵画への理解を深め、考える力を付けて、絵画的表現力と造形的表現力を養うことを目標としています。



デザイン・工芸

【1年構成】デザイン工芸では、最初に色彩の基礎理論を学び、配色の演習を行っています。1回目は「イラスト文字」を制作しアイデアの導き方や、形の構成や配色を学びます。2回目は「公共広告」のポスター制作を行っています。ここでは社会へメッセージを発信することや自分の制作意図を明確にした構成などを学んでいます。

【2・3年専門】デザイン工芸の分野は幅広いので、各分野の体験的な演習から始めます。その後、デザイン領域の基礎的課題を経て、実際の大学入試課題と各自の制作活動を行います。
大学入試課題では、それぞれの方向性を理解した上で、各自の考え方(独創的な視点)や表現の追求を目標としています。

イベントカレンダー

日々の学習、制作の積み重ねだけでなく、美術科独自のイベントも多数行い、様々なアプローチで美術家になるための基礎を養います。



- 4
- まじめな美術科集会
- たのしい美術科集会



- 7
- デッサンコンクール1
- 夏期特別補習

- 6
- 特別実技指導(春)

- 8
- 東京藝大見学



デッサン
コンクール

- 9
- 白梅祭
- 美術科講演会
(3年に1度)



特別講演

- 10
- 卒業制作展

- 11
- イタリア研修旅行
(2年生)
- 特別実技指導(冬)
- デッサンコンクール2

- 2
- SHOW文化祭
- デッサン
コンクール3

イタリア研修旅行

美術科での学習を基に、西洋美術の作品を鑑賞することにより、美術に対する理解を深め、美術活動に対する意欲的な姿勢を育てます。また西洋の自然や芸術文化に接し、見聞を広めるとともに自国の自然や芸術文化を再確認し、国際的な視野を養います。(今後、国際情勢によっては行き先が変更になる場合があります)



Firenze
Assisi
Roma

Vieni di nuovo!



卒業制作展

3年生は夏休み前から美術科での学びの集大成として、各自でテーマを定め卒業制作に取り組みます。そして秋には岐阜県美術館で展示し、各専攻の優秀な作品には白梅賞が贈られます。作品制作と同時に素描による自画像も制作、展示します。



卒業後の進路

東京藝術大学	23名	多摩美術大学	34名
愛知県立芸術大学	56名	武蔵野美術大学	13名
金沢市立美術工芸大学	51名	名古屋芸術大学	54名
その他国公立大学	17名	(教育系) 岐阜大学	5名

50回生から59回生までの主要大学進学者数です。他の進学大学は、国公立では、京都市立大学、沖縄芸術大学、静岡文化芸術大学、広島市立大学、長岡造形大学、尾道市立大学、筑波大学など。私立大学では、東京造形大学、女子美術大学、名古屋造形大学、東北芸術工科大学、京都芸術大学、大阪芸術大学など。

活躍する卒業生

神戸 智行 28回生
日本画家

多摩美術大学美術学部日本画卒業
同大 大学院日本画専攻 修了



青木 千絵 35回生
漆彫刻家・大学准教授

金沢美術工芸大学 美術工芸学部 工芸科 卒業
同大 大学院 修士課程 美術工芸研究科 修了
同大 大学院 博士後期課程 美術工芸研究科
工芸研究領域 漆・木工コース 修了 博士取得



上村 昌 32回生
グラフィックデザイナー

多摩美術大学グラフィックデザイン学科 卒業



村瀬 恭子 17回生
画家・大学教授

愛知県立芸術大学美術学部油絵科 卒業
同大 大学院修了
国立デュッセルドルフ芸術アカデミー
マイスター・シュラー



大竹 寛子 33回生
日本画家

東京藝術大学日本画先行 卒業
同大 大学院美術研究科日本画専攻 修了
同大 大学院博士 後期課程 日本画研究領域 修了
美術研究博士号 取得